ゆらぐ大地に県民おののく

津波襲来!!高鳴る警報

住民は続々避難 被害報告相次ぐ

午前九時四十九分—突如襲った強震に県民は恐怖におののいた。みんな戸外に飛び出し、ゆらぐ大地にただ驚くばかり。沿岸部では、四十分後に海水が引きはじめ、やがて三㍍を越える津波が襲来、高鳴るサイレンで住民は続々避難した。津波の被害は予想外に大きいもようで、県警本部、県消防防災課に被害報告が相次いだ。

宮古湾に第二波

震源地は北海道十勝沖

盛岡地方気象台が十六日午前十一時半発表した地震情報によると、震源地は北海道十勝沖で、午前十時二十分宮古沿岸に第一波の津波が記録された。また正確な地震発生時刻は午前九時四十九分。

◇

午前十一時十分、県警本部にはいった情報によると、宮古湾に第三波の津波が襲来中。また午前十一時十三分山田湾の水位が三・八㍍から四㍍上昇している。

【宮古】午前九時五十分、地震とともに宮古市役所、宮古警察署は、それぞれ対策本部を設置、警戒に当たった。午前十時五分、津波警報とともに市役所、消防車のサイレンで津波警報を伝達、十時二十二分海岸地帯に避難命令を発令、市民はぞくぞくと高台に避難した。

宮古港内に入港中の約十隻の貨物船は、港中央部に避難したが、閉伊川岸壁に係留中の約二十隻の漁船は、十時四十四分第二波の襲来で綱を切られ漂流、各船がぶつかり合って、相当の損害が出たもようだが、午前十一時三十分ごろから津波の余波も弱まった。

地震の恐怖にビルから飛び出した人たち—盛岡市菜園一丁目

市民二万人が続々と高台へ

【大船渡】午前十時避難命令が発動され大船渡市大船渡町、末崎町、赤崎町の住民約二万人が近くの山や公園に避難した。大船渡町の繁華街の各商店は全部シャッターを閉め、家財道具や商品などを自家用車に積んで、高台に避難し、また県南バス大船渡営業所のバス四十台が市内線は全面ストップ、同市大船渡町の高台の大船渡中学校校庭に避難した。

町は荷物や子供を背負って避難する市民でゴッタ返した。大船渡測候所の調べでは、十時半現在、大船渡湾で約一㍍の海水が引き、各船が沖合に避難し、同市内には同市消防署の消防自動車やパトカーがサイレンを鳴らし、市民に避難を呼びかけている。同大船渡町加茂神社境内に設けられた津波警報塔のサイレンや、魚市場や旧魚市場、小野田セメント工場の非常サイレンが鳴り渡る中を消防団、警察官などが誘導にかけ足で活動した。警報発令と同時に、市役所に災害救助本部が設けられ市職員全員が配備につき、救援活動の態勢を固めた。

加茂神社境内に避難した大船渡市民

防潮堤の水門閉じる

【陸前高田】午前十時五分、津波警報発令サイレンと半鐘が鳴り渡り、同時に沿岸部の防御を固める防潮堤の水門が堅く閉ざされた。近海巻き網船団の基地長部と泊両港からは三十余隻の漁船が沖に避難、沿岸部の市民約千人も高台に逃げた。

チリ地震津波後八年経過し、当時の恐怖感も薄らいでいた矢先の津波襲来だけに、避難した市民は「災害は忘れたころにやってくるというのは本当だ」と、身にしみて感じたようす。警戒に当たる消防団員も「二十四日にはチリ地震津波被災八周年を迎えるが、これで市民の忘れがちな不断の心構えも引き締まったでしょう」と語っていた。

百戸が浸水

【釜石】午前十時半の第一波に続いて、二十—三十分間隔に津波が押し寄せた。正午近くの第四波が最も大きく、釜石市東前町、新浜町の海岸沿いの約百戸の民家や事務所など床上まで水が上がった。路上には魚を詰めるからダルや、サッパ舟などが波に押し上げられていた。

また釜石港の漁船は、津波警報の発令と同時に一斉に港外に出て漂流しながら避難しているほか、釜石署、釜石海上保安部、釜石消防署は警報の伝達、避難する市民の雑踏警備や誘導に当たった。

道路に漁船

4メートル越す高波

【久慈】久慈地方の地震はかなり強く、電柱が左右に揺れ、タナからボタボタ物が落ち、道路に停車していた自動車が前後に移動するほどだった。

市内では電気が消え、電話が不通となり、たよるのはトランジスタラジオだけ。道路に避難した市民から、津波が来る—との叫びが上がった。久慈消防署と久慈署は、午前十時十分、海岸地帯の住民に避難命令を出すとともに、非常警戒配備についた。

久慈湾は海水が見る見るうちに引き、津波の第一波が午前十時二十分に押し寄せた。高さ四㍍二十㌢の高波が、同市長内町の玉ノ脇に押し寄せ、荒れ狂った。

避難していた漁船四隻が防波堤に打ちつけられ、破壊、一隻が高波で道路に打ち上げられた。

続いて十時四十五分第二波の三㍍五十㌢、十一時十分第三波の四㍍五十㌢の高波が押し寄せた。

玉ノ脇一帯は海底が一面に姿を現わし、沖に引いた波が海岸めがけて押し寄せた。「逃げろ、逃げろ」と声が上がり、寝具などを持って高台に避難した住民の中には泣き出す人もあり、一時間余り住民たちは不安のドン底に突き落とされ、老人がショック死するなど大騒ぎだった。古老たちは「こんな強い地震ははじめてだ。チリ地震津波よりひどい—」と驚いていたが、久慈市役所は、対策本部を設け、避難住民の救済に当たっている。

急激な引き潮

沿岸各地に避難命令

県警本部にはいった連絡によると午前十時三十五分発令の津波情報によると久慈市で潮が三百㍍にわたって引き、海底が露出している。また釜石市で海水位が四㍍下がり、長根灯台の基底部が海上に現われた。午前十時四十五分小本線に落石、閉伊川の水が逆流しているほか、山田湾の水位が一㍍下がって津波の兆候があり、また大船渡市末崎海岸でも急激に潮が引いている。このため午前十時四十分釜石市、宮古市、山田町に避難命令が出された。

検潮器こわれる

宮古と大船渡

盛岡地方気象台にはいった連絡によると宮古、大船渡両湾にある検潮器が午前十時半ごろ、いずれも振り切れ、潮の高さが計れない状態になった。潮が急激に引き、機械の糸が切れたためとみられる。

盛岡—久慈回線が不通

岩手電気通信部保全課の調べによると、午前十一時現在、二戸郡福岡町と久慈市間のケーブル中継所が故障、このため盛岡市—久慈市間の電話百十二回線が不通になっている。

同通信部では、被害がさらにあるものとみて、非常災害対策本部（本部長佐藤利胤同通信部長）を設け、被害対策に乗り出した。

八戸では火災が発生

家屋七十戸が倒壊

【青森】青森県は十六日午前九時五十分ごろ、全県にわたり震度5の強震に襲われた。八戸市内を中心に太平洋沿岸各地でかなりの被害を出している。青森県警本部が同日午前十時半まとめた被害状況によると、八戸市で七十戸の家屋倒壊が発生。死亡者二人が出たほか各所で火災が発生している。青森市では倒れた家屋の下敷きになり、四人が生き埋めとなったが青森署員の出動でうち三人が救出された。国鉄青函連絡船の青森桟橋は屋根の一部が衝撃でくずれ落ちた。

下北郡野辺地町では国鉄野辺地駅前で火災が発生しており十時現在かなり下火になった。三沢市でも小学校が延焼中のほか、道路が各所で大きなキ裂を生じている。

青森市でも地震とともに電気、ガスがストップし市外電話線は全部不通となった。市内通話も不調。青森地方気象台の観測によると青森は震度五の強震、太平洋一帯に津波の恐れが出ている。

青森県は自衛隊などの応援を求め、八戸市への救援対策を急いでいる。

津軽地方は一部で家屋が倒れるなど軽微な影響があったが被害は八戸、三沢を中心に太平洋岸一帯に集中しているのが特徴だ。

【青森】青森県警本部に十一時までにはいった報告によると、青森県内で家屋の倒壊、土砂くずれなどで三人が死亡、二人が行くえ不明となった。

十六日午前十時五十分ごろ、青森市大坂町で家屋が倒壊、家のなかにいた小田桐隆元ちゃん(3つ)と同康二ちゃん(六カ月)の二人が死亡、ほかに二人が重傷を負った。

また、むつ市の早掛沼の堤防が決壊、付近で作業していた佐々木まつえさん(三〇)と上路うめさん(六八)が流されたが、佐々木さんは間もなく救助された。しかし上路さんは行くえ不明となった。

また十和田湖の焼山でも土砂くずれがありバイクで進行中の一人が死亡、一人が行くえ不明となっている。

青森県境で国道が陥没

各地で土砂くずれ

県災害対策本部に午前十時二十五分までにはいった津波情報によると、三陸沿岸に一㍍から二㍍近い第一波が押し寄せた。

久慈市玉ノ脇では、十時四十五分波が漁協の屋根まで達したほか、宮古で同午前十時二十分、波高一・三㍍から一・五㍍、陸前高田市長部港でも同十時四十五分一・五㍍の護岸をオーバーする第一波が押し寄せた。

また青森県との県境にある青谷橋北方二百㍍の地点で国道四号線が約百㍍にわたって陥没、交通は完全にしゃ断された。

震度5に右往左往

【盛岡】高層ビルの多い県都も思いがけない大地震に市民は一瞬恐怖のどん底におとされた。地上十二階の県庁舎、十階の県農林会館、八階の市役所庁舎、七階の県産業会館などの高層ビルはゆれもひどく〝ビルの住民〟は初の震度五に右往左往。

学校、幼稚園なども園児や学童が一斉に街路に飛び出し、不安なおももちで上空を見上げていた。

市内の厨川小学校ではカベがくずれ落ち、市内青山二丁目の浴場の煙突が倒れたほか、セトモノ屋の損害が大きかった。

このほか市内名須川町、報恩寺内にある盛岡市の指定文化財「五百羅漢像」一体が台から落ち、破損した。

路盤損壊・脱線

盛鉄局 全列車一時止める

十六日午前九時五十分、地震発生とともに、盛鉄局は全列車の運行を止めた。この地震の影響で、東北本線滝沢—渋民間で路盤が陥没、小繋—小鳥谷間で路盤キ裂、鳥越付近で築堤の斜面に張ったコンクリートがほう壊、斗米—金田一間で信号機がこわれて不能となった。金田一—目時間で鉄橋が沈下、目時—三戸間で下り線路が決壊した。剣吉駅構内で貨車十両脱線、尻内駅構内では気動車三両、貨車五両が脱線した。陸奥市川駅構内では貨車転覆、野辺地—狩場沢間で路盤沈下の被害があった。

さらに同日午前九時五十分東北本線矢幅駅を通過した上り急行二一九〇貨物列車が、強震のため同駅南方一㌔の間野々踏み切りで立ち往生した。同踏み切りの警報機が故障、備え付けの発煙筒が燃え続けたため列車火災かと一時は大騒ぎだったが、無事だった。一方同線の二枚橋—石鳥谷間でも上野発青森行きの二二九普通列車も修学旅行生を乗せたままストップした。

◇　◇

盛鉄局は同日午前十時十五分に、同局運転指令室に対策本部（本部長森垣常夫局長）を設け、管内の全列車に停止指令を出したが、東北本線は盛岡以南で被害がないことがわかり、盛岡駅十二時三十分発の上り急行「第2いわて」から運転を開始した。また、支線の山田線、大船渡線、釜石線、田沢湖線、北上線も同日正午過ぎ運転を開始した。しかし、盛岡以北の東北本線、八戸線、大湊線、大畑線、花輪線は被害状況がはっきりつかめておらず、不通となっている。

新校舎が全壊

浄法寺小

十六日午前十時ごろ、二戸郡浄法寺町立浄法寺小学校の木造二階建て新校舎一むね約二千八百二十一平方㍍が全壊、けが人はなかったが、損害五百万円。

同日午前十時ごろ、盛岡市下厨川字茨島一五ノ三、東邦アセチレン会社社員、阿部司郎さん(三二)が同社工場で作業中、ボンベが頭に倒れ、頭部ザ創で一カ月の大けがをしたほか、同市内で家の中にいて落下物に当たり、二人が重軽傷を負った。

四人が死傷

県警集計

県警本部集計による同日午後二時現在の被害状況次の通り。

▽死者 一人▽負傷者 三人▽家屋半壊 四▽床上浸水 七百九十四（釜石）▽床下浸水 十▽家屋一部破損 五▽非住家半壊 一▽道路損壊 十一▽がけくずれ 一▽鉄道被害 九▽通信施設被害 五▽船舶沈没 五▽同流失 十三▽同破損 四。

市内は停電

水沢、震度の測定不能

【水沢】午前九時五十一分ごろから約四分間にわたって強くゆれ続け、道路上で立っていられないほどだった。この強震で、水沢緯度観測所の地震計の針が飛び、地震計観測が出来なくなるなど、大混乱した。また上り特急「やまびこ」が、水沢駅で立ち往生したまま、定刻の九時五十分に発車が出来ず、三十分以上も遅れてやっと動き出した。

小中学校はちょうど二校時の真っ最中で、先生の誘導で避難した。

一方、東北電力水沢営業所水沢変電所の配電線がショートして、送電不能となり、水沢市の一部を除いてほとんど停電、復旧は夕刻までかかる見込み。

市民はあき地に避難

一関市も停電

【一関】突然のはげしい震動に市民はびっくりして、ほとんど外に飛び出し、あき地などに避難する人も多かった。ある人は「このような長く、はげしい地震は今まで経験がない。たなから物が落ちるし、家が倒れるのではないかと思った」と、地震がやんでもなお恐怖の表情。

この地震で、一関市内の電線が断線、旧市内はほとんど停電したが、東北電力一関営業所で復旧に努めている。

大型車は通行不能

晴山猿峠でひび割れ

県道久慈—福岡線の軽米町晴山猿峠付近で、約五、六十㍍にわたり、道路中央にひび割れがはいり、大型車は通行不能となった。

国鉄東北本線金田一—斗米駅間の前沢鉄橋が五㌢移動した。

救援出動を完了

自衛隊岩手駐とん部隊

自衛隊岩手駐とん部隊は、同日午前十時十分、津波被災救援のための指揮所を岩手郡滝沢村一本木の同駐とん地内に設置、幹部三人を県警警備本部に派遣するとともに、十一時三十分までに救援出動準備を完了した。

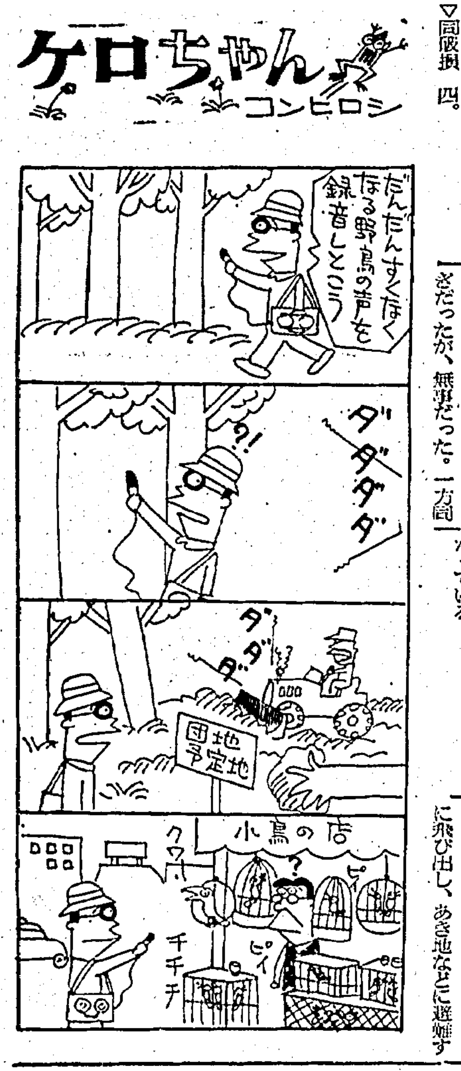
クレーンから転落

十六日午前九時五十分ごろ、盛岡市仙北二丁目、北日本機械株式会社の工場で作業していた製造部製カン一課川守金太郎さん(四七)=紫波郡紫波町北日詰=は、地震のため作業をやめて、高さ四㍍のクレーンから降りる途中、揺れたため転落、全身を強く打って、岩手医大付属病院に運ばれた。

◇お断わり 「歩行者の交通診断書」は休みます。

県下の交通事故

◇15日の事故	二三件
死者	なし
傷者	一七人
◇1月からの累計	一九一八件
死者	四一人
傷者	一五九六人



この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。